



# ドウグリン水和剤

農林水産省登録 第17832号

## 適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
日本芝	ヘルミントスポリウム葉枯病 カーブラリア葉枯病	250~500倍	1ℓ/m <sup>2</sup>	発病初期	3回以内	散布	5回以内
西洋芝 (ベントグラス)	葉腐病(ブラウンパッチ) ヘルミントスポリウム葉枯病 カーブラリア葉枯病						
	立枯病(テイクオールパッチ)	250倍					
	かさ枯病 褐条病	200倍					
西洋芝 (ベントグラス)	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	80~100倍	0.2~0.25ℓ/m <sup>2</sup>	発病前~ 発病初期	根雪前		
	雪腐小粒菌核病	40倍	0.1ℓ/m <sup>2</sup>				
ま っ	葉ふるい病	1000倍	200~700ℓ/10a	生育期	4回以内		4回以内

作物名	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
西洋芝 (ベントグラス)	藻類	藻類発生前	80~120倍	0.2~0.3ℓ/m <sup>2</sup>	3回以内	散布	5回以内
	コケ類	コケ類発生前~生育期					





## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤との混用はさける。
- 芝の雪腐病防除には、薬量として平方メートル当たり2.5gをなるべく根雪近くの晴天の日に散布する。
- 芝生育期のコケ類又は藻類防除には、コケ類については発生前～発生期に、藻類については発生前に薬量として2.5g/m<sup>2</sup>を10～14日間隔で2～3回散布する。
- 芝のかさ枯病防除には、芝生育期のかさ枯れ病発病前～発病初期に薬量として2.5g/m<sup>2</sup>を7～10日間隔で2～3回散布する。
- ベントグラスに使用する場合、夏期高温時に連続散布すると、茎葉が黄褐変することがあるので注意する。また、誤って高濃度で散布すると、薬害を生じるおそれがあるので、所定濃度を厳守する。
- 本剤を芝の生育期に使用する場合、茎葉に薬液の汚れが残ることがあるので注意する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

## ⚠ 安全使用上の注意



- 誤飲、誤食などのないよう注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
- 街路、公園等で使用する場合、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

治療法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。

水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

- PRTR法
- 火災時は適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努める。
  - 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する。
  - 移送取扱いは、ていねいに行う。

